

要性が再認識されていますが、知事の見解を伺います。

答

県では「三重県新エネルギー、県民とともに導入を進めている太陽光発電や、地域特性を生かした風力発電など8種類について、目標を定め、普及、啓発に積極的に取り組んでいます。



小型風力発電装置(伊勢市生涯学習センター)

なお、原子力発電所の立地については、地域住民の同意と協力が得られることが尊重されるべきであり、慎重に対応していきます。

○その他の質問事項
○昨今の世相 ほか

平成21年度予算の編成方針

森本 繁史 議員
(県政みらい／熊野市・南牟婁郡選出)

問

県の借金である県債残高が、今年度末には1兆円を超える見込みです。実質公債費比率などをみると、三重県の財

政は健全に推移していると考えますが、知事は1兆円の県債についてどう考えていますか。

また、本年度の予算は平成12年度と比較すると、約1千億円減少しています。来年度も減少することが予測されますが、投資的経費が減少すると、予算の硬直化を招き、新しい取り組みができなくなるのではないのでしょうか。

答

県債の増加は、国の景気対策に合わせて公共事業等の追加を行うなど、国の政策により大きな影響を受けています。しかし、県債への依存が公債費を増加させ、財政を圧迫するため、発行の抑制を心がけてきました。



今後も、事務事業の徹底的な見直しや総人件費の抑制、事業の選択と集中を一層進め、メリハリの効いた予算編成とともに、可能な限り県債残高の抑制に努めます。

○その他の質問事項
○「美しい国おこし・三重」 ほか

一般質問

豪雨災害に対する備え

日沖 正信 議員
(新政みえ／いなべ市議員并郡選出)

問

河川に土砂が堆積し、撤去の必要がある箇所は、県内で200カ所を超えると聞いています。撤去しなければ、洪水で二次災害が発生するおそれもあります。

重要な箇所から撤去する、全体管理計画を策定し、通常の維持管理費とは別に、確実に対応していく仕組みが必要だと考えます。また、小規模な河川などは県民の協力を得られるようにしてはいかがですか。

答

撤去の方法は、改良工事に伴う除去や、維持工事による河床掘削などの手法があり、河川や土砂の状況や緊急度に応じて、計画的に撤去を行っています。

今後も優先度の高い箇所から計画的に撤去に取り組みほか、河床対策として、自治会委託やボランティアの活用について、検討していきたいと考えます。



○その他の質問事項

○企業誘致促進への取り組み ほか

県内における北勢地域の道路交通網整備による経済効果

小林 正人 議員
(自民・無所属議員団／鈴鹿市選出)

問

北勢地域は産業、観光の集積地として発展を続けています。これには、国道1号、23号、東名阪自動車道といった道路交通ネットワークが大きな役割を果たしてきました。

しかし、幹線道路はすでに能力不足となり、事故の増加や渋滞などが発生しています。地域のさらなる活性化には、道路整備を速やかに進め、交通の円滑化を図ることが不可欠と考えます。

答

幹線道路は、県内外の交通を促進し、産業や観光の振興に寄与するとともに、災害時にも大きな役割を果たします。

このため、県内幹線道路網を、おおむね10年後に概成することを目指して、重点事業として位置づけ、国直轄事業負担金を大幅に増額するとともに、国等にも事業の推進を強く働きかけています。

○障がい者の雇用問題と工賃倍増計画 ほか

